

Radia を使用する HP OpenView Administrator Workstation

Radia Publisher ガイド

バージョン: 4.0i

Windows オペレーティング システム用



製造パート番号: T3420-90026

2005 年 7 月

© Copyright 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

ご注意

1. 本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。
2. 当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。
3. 当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 本製品パッケージとして提供した本書、CD-ROM などの媒体は本製品用だけにお使いください。プログラムをコピーする場合はバックアップ用だけにしてください。プログラムをそのままの形で、あるいは変更を加えて第三者に販売することは固く禁じられています。

本書には著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。

権利の制限

合衆国政府が使用、複製、または開示を行う場合、国防総省については DFARS 252.227-7013 の "Rights in Technical Data and Computer Software" の (c) (1) (ii) に記載されている制限が適用されます。

Hewlett-Packard Company
United States of America

その他の機関については FAR 52.227-19 の (c) (1) および (c) (2) に記載されている制限が適用されます。

著作権

© Copyright 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

OpenLDAP は、OpenLDAP Foundation の登録商標です。

謝辞

PREBOOT EXECUTION ENVIRONMENT (PXE) SERVER
Copyright © 1996-1999 Intel Corporation.

TFTP SERVER
Copyright © 1983, 1993
The Regents of the University of California.

OpenLDAP

Copyright ©1999-2001 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.
Portions Copyright © 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

OpenSSL License

Copyright © 1998-2001 The OpenSSLProject.

Original SSLeay License

Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

DHTML Calendar

Copyright © Mihai Bazon, 2002, 2003

テクニカル サポート

<http://www.hp.com/managementsoftware/services> のサイトをご覧ください。

ここでは、HP OpenView の製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ情報が掲載されています。

サポート専用サイトから、次の内容が参照できます。

- ドキュメントのダウンロード
- 不具合修正情報
- パッチと更新情報
- 不具合のレポートイング
- トレーニングの情報
- サポート プログラムの情報

このマニュアルについて

対象読者

Radia Publisher は、企業内で Windows インストーラ ベースのアプリケーションおよびオペレーティング システム イメージを Radia データベースにパブリッシュする担当者を対象とした製品です。

このマニュアルの内容

Radia Publisher には、最小限の設定と手順で、お使いの環境に配布するアプリケーションが準備できる、効率的なパブリッシュ インターフェイスが用意されています。『Radia Publisher ガイド』では、Windows インストーラ アプリケーションおよびオペレーティング システム イメージをパブリッシュする場合の各プロセスにおけるさまざまな状況や手順について解説します。

表記について

このマニュアルは、以下の表記に従って記述されています。

表 P.1 ~ スタイル

構成要素	スタイル	例
参照先	斜体	このマニュアルの「 <i>Radia Publisher</i> について」を参照してください。
ダイアログボックス、ウィンドウ	太字	[Radia System Explorer のセキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。
コード	Andale Mono	radia_am.exe
選択する対象	太字	インストール CD-ROM の ¥Admin ディレクトリを開きます。

表 P.2 ~ 用法

構成要素	スタイル	例
ドライブ (システム ドライブ、マップされたドライブ、CD ドライブ)	斜体のプレースホルダ	<i>SystemDrive:¥Program Files¥Novadigm</i> は、使用しているコンピュータのシステム ドライブが C: であれば C:¥Program Files¥Novadigm を意味します。 <i>CDDrive:¥client¥radia_am.exe</i> は、使用しているコンピュータの CD ドライブが D: であれば D:¥client¥radia_am.exe を意味します。
ファイル (Radia データベース内)	すべて大文字	PRIMARY
ドメイン (Radia データベース内)	すべて大文字	PRIMARY.SOFTWARE PRIMARY ファイル内の SOFTWARE ドメイン、と表現する場合があります。
クラス (Radia データベース内)	すべて大文字	PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE PRIMARY ファイル内の SOFTWARE ドメインの ZSERVICE クラス、と表現する場合があります。

次の表は、このマニュアル全体を通して同じ意味で使用される用語を示しています。

表 P.3 ~ 用語 *

* 文脈によっては、同義にならない場合もあります。

用語	別の呼称
アプリケーション	ソフトウェア、サービス
クライアント	Radia Application Manager、Radia Software Manager
コンピュータ	ワークステーション、サーバー
NOVADIGM ドメイン	PRDMAINT ドメイン 注意: Radia データベースのリリース 4.0 からは、NOVADIGM ドメインから PRDMAINT ドメインに名称変更されています。そのため、それ以前のバージョンを使用している場合には、データベース内で NOVADIGM ドメインと表示されます。
Radia Configuration Server	マネージャ、アクティブ コンポーネント サーバー
Radia データベース	Radia Configuration Server データベース

まえがき

目次

まえがき	5
このマニュアルについて	5
対象読者	5
このマニュアルの内容	5
表記について	6
1 はじめに	11
Radia を使用したパッケージ化およびパブリッシュについて	13
Radia Publisher について	14
Radia Publisher を使用してパブリッシュする	15
Radia Publisher を起動する	16
まとめ	17
2 Radia Administrator Workstation をインストールする	19
Radia Administrator Workstation	20
システム要件	20
Radia の要件	20
Windows システムの要件	20
Radia Administrator Workstation をインストールする	21
まとめ	27

3 Radia Publisher を使用してファイルをパブリッシュする	29
概要.....	30
Windows インストーラ ファイルをパブリッシュする.....	30
パブリッシュ モード: 詳細なパブリッシュと基本のパブリッシュ	32
詳細なパブリッシュ モード.....	33
基本パブリッシュ モード.....	35
.MSP ファイルを使用して既存のパッケージをアップグレードする	42
オペレーティング システム イメージをパブリッシュする.....	43
コマンドラインによるパブリッシュ.....	52
コマンドラインでパブリッシュするファイルを定義する	55
複数の .msi ファイルをパブリッシュする (バッチ モード).....	55
複数の設定ファイルを使用する	57
変換 (.mst) ファイルを格納する	59
シンボリック置換を使用して設定ファイルの値をカスタマイズする.....	60
組み込み MSI プロパティおよび Radia Extensions for Windows Installer のユーザー定義のプロ パティ	62
まとめ	63
リスト.....	65
図.....	65
表.....	67
手順.....	68
索引.....	69



はじめに

この章は以下を目的としています。

- Radia Publisher に精通する。
- Radia データベースへのパブリッシュ プロセスについて理解する。
- Radia Publisher を使ってパブリッシュできるアプリケーションおよびファイルのタイプについて理解する。

はじめに

Radia Publisher を使用すると、効率的なプロセスでアプリケーションやファイルが Radia データベースにパブリッシュできます。現在、Radia Publisher でサポートされているのは、Windows インストーラ アプリケーションおよびオペレーティング システム イメージのパブリッシュです。



図 1.1 ~ Radia Publisher のログオン ウィンドウ

Radia を使用したパッケージ化およびパブリッシュについて

パッケージ化とは、リソースの特定、リソースのインストール属性の編集、リソースのインストール方法の定義から、リソースとインストール指示をコンピュータが読み取り可能なファイル形式で保存するまでのプロセスを指します。パッケージには、通常1つ以上のファイルと設定が含まれます。

パブリッシュとは、パッケージとそこに組み込まれた情報を Radia データベース (Radia Configuration Server データベースとも呼ぶ) にインポートするプロセスのことです。パッケージのパブリッシュは、パッケージの内容をお使いの環境に分散して配布する前に行わなければなりません。

Radia では、さまざまなパッケージ化オプションおよびパブリッシュ オプションが複数のツールで提供されています。作成してパブリッシュするリソース パッケージのタイプを確認してから、Radia のパッケージ化用製品やパブリッシュ用製品を必要に応じて選択します。

- Windows インストーラ ファイルをパッケージ化する場合、**Radia Packager for Windows Installer** を使用します (『Radia Extensions for Windows Installer Guide』を参照してください)。
- Windows インストーラ ファイルをパブリッシュする場合、Radia Publisher を使用します (『Radia Publisher ガイド』を参照してください)。
- その他のタイプのファイルやアプリケーションをパッケージ化およびパブリッシュする場合は、Radia Packager を使用します (『Radia Application Manager ガイド』または『Radia Software Manager ガイド』を参照してください)。

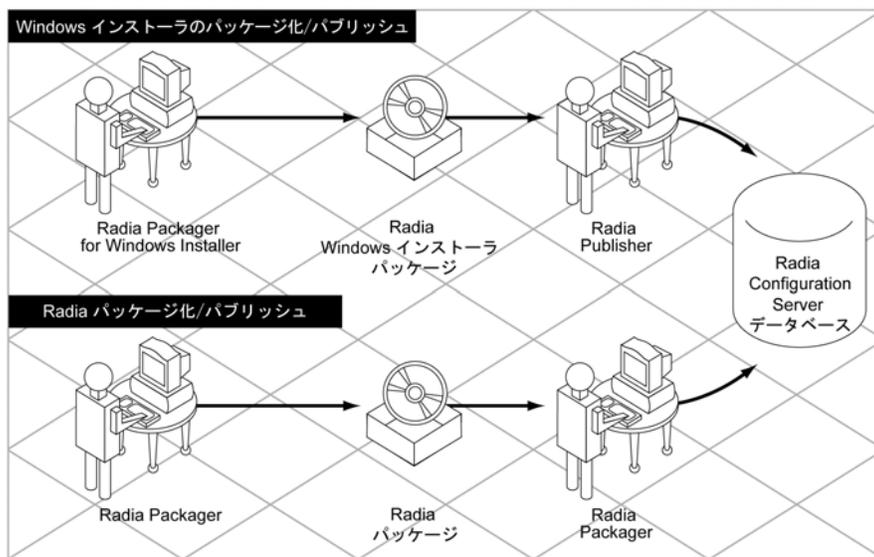


図 1.2 ~ Radia パッケージ化/パブリッシュのオプション

Radia Publisher について

Radia Publisher は、Windows インストーラ アプリケーションおよびオペレーティング システム イメージの、Radia データベースへのパブリッシュを容易にする管理ツールです。わずか 4 つの手順で、ファイルを環境に配布する準備ができます。

Radia Publisher は、管理者がパブリッシュに必要なファイルにアクセスできるコンピュータにインストールしてください。

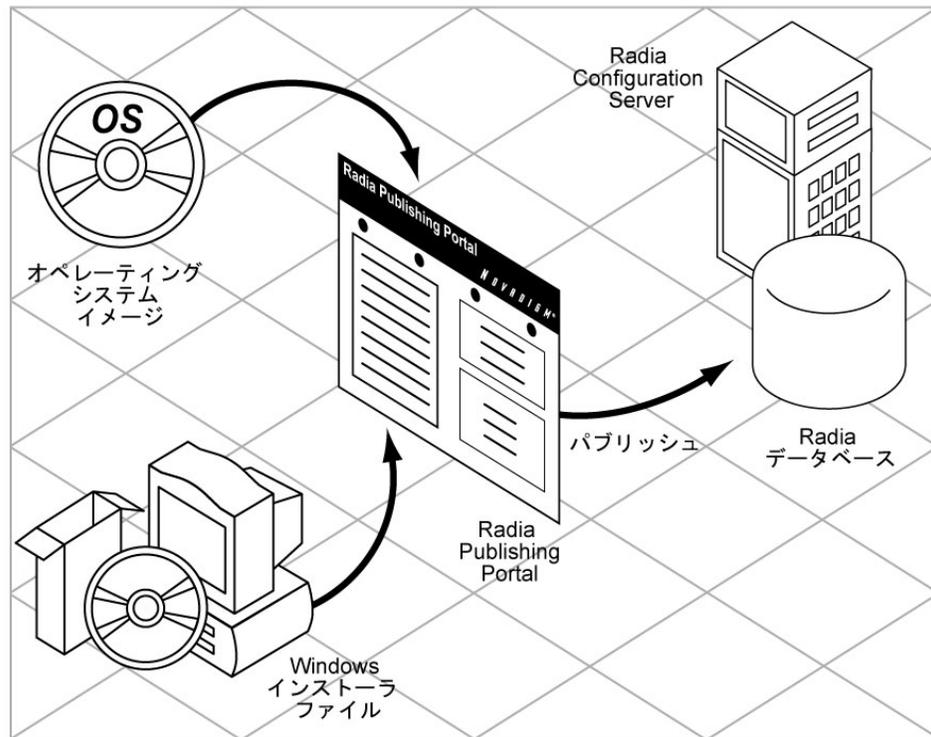


図 1.3 ~ Radia データベースにパブリッシュする Radia Publisher

Radia Publisher を使用してパブリッシュする

Radia Publisher は、主に以下の 4 つの手順で Radia データベースにファイルをパブリッシュします。

1. **選択**—Radia データベースにパブリッシュするファイルまたはイメージを選択します。
2. **編集**—管理インストール ポイントの作成、アプリケーションのユーザー インターフェイスのシミュレーション、MSI 機能およびプロパティの編集、変換の選択、マシン/ユーザー パラメータの有効化を行います (Windows インストーラ ファイルのみ)。
3. **設定**—データベースにパブリッシュする Radia パッケージまたは Radia サービスを作成するための情報を提供します。
4. **パブリッシュ**—Radia データベースにパブリッシュします。

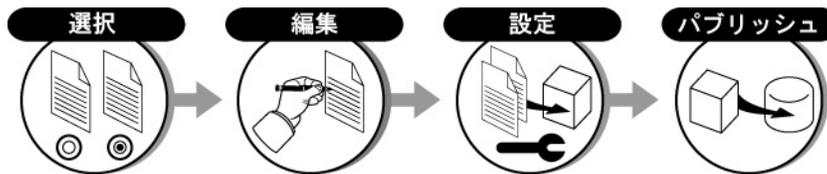


図 1.4 ~ パブリッシュの手順

各手順のウィンドウで要求される情報を提供することにより、パブリッシュするパッケージの選択、編集、設定を行います。29 ページの「第 3 章: Radia Publisher を使用してファイルをパブリッシュする」で、パブリッシュ プロセスの各手順について詳しく説明します。

ユーザー インターフェイスの上部に手順の番号が表示されるので、現在パブリッシュ プロセスのどの段階にいるかが常に確認できます。現在の手順は強調表示されます。

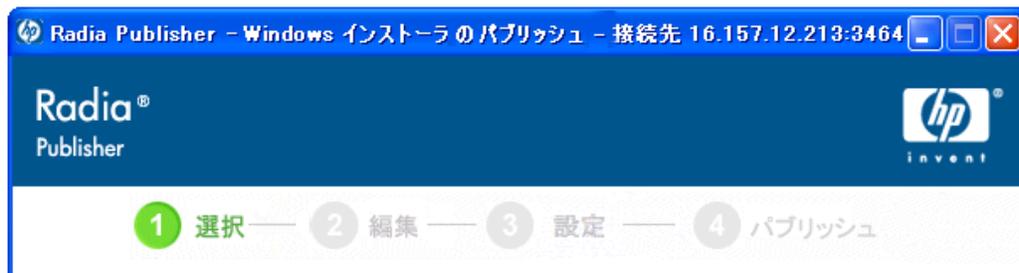


図 1.5 ~ ユーザー インターフェイスで強調表示される現在のパブリッシュの手順

Radia Publisher を起動する

Radia Publisher は、Radia Publisher がインストールされている管理コンピュータから実行します。

Radia Publisher を起動するには

1. デスクトップの [Radia Publisher] アイコンをダブルクリックします。



図 1.6 ~ Radia Publisher のログオン ウィンドウ

2. Radia Publisher のログオン ウィンドウで、Radia 管理者パスワードを入力し、[パブリッシュするデータのタイプ] ボックスの一覧からパブリッシュするファイルのタイプをクリックします。19 ページの「第 2 章: Radia Administrator Workstation をインストールする」で、Radia データベースへファイルをパブリッシュする場合の各手順について詳しく説明します。

まとめ

- Radia Publisher を使用すると、Radia データベースに Windows インストーラ ファイルおよびオペレーティング システム イメージがパブリッシュできます。
- Radia Publisher は主に、選択、編集、設定、パブリッシュという4つの手順で構成されます。
- デスクトップにインストールされたアイコンから Radia Publisher が起動できます。

はじめに

Radia Administrator Workstation をインストールする

この章は以下を目的としています。

- Radia Administrator Workstation をインストールするための要件について理解する。
- Radia Administrator Workstation がインストールできるようになる。

Radia Administrator Workstation

Radia Publisher は、Radia Administrator Workstation スイートのアプリケーションで利用できる機能の 1 つです。このソフトウェアは、Radia Infrastructure CD-ROM の management_infrastructure ディレクトリに格納されています。

Radia Administrator Workstation は以下の機能で構成されます。

- Radia Packager
- Radia System Explorer
- Radia Client Explorer
- Radia Screen Painter
- Radia Publisher

Radia Administrator Workstation をインストールするときに、上のすべての機能をインストールするか、または必要な機能のみインストールするかが選択できます。

デフォルトではすべての機能がインストールされます。

システム要件

Radia の要件

- Radia データベースバージョン 3.1 以上 (Radia Configuration Server 4.5.1 以上)。**.msi** ファイルをパブリッシュするときに、**MSIPROPS** および **MSIBASIC** の 2 つのクラスが必要です。このデータベースバージョンではどちらも使用できます。
- Radia Publisher をインストールする前に Radia Administrator Workstation をインストールする必要があります。Radia Publisher は、Radia Administrator のインストール中に定義される共有コンポーネントを Radia データベースへの接続時に使用するためです。

Windows システムの要件

- Windows 9x、NT、2000、Windows 2003 Server、および XP

Radia Administrator Workstation をインストールする

Radia Administrator Workstation をインストールするには

1. Radia インフラストラクチャ CD-ROM を挿入し、administrator_workstation ディレクトリ内にあるオペレーティング システム別の適切なサブディレクトリに移動します。

たとえば、Windows バージョンの Radia Administrator Workstation をインストールする場合は、¥management_infrastructure¥administrator_workstation¥win32¥ に移動します。

2. Setup.exe をダブルクリックしてインストールプログラムを起動します。



図 2.1 ~ Radia Administrator Workstation の [ようこそ] ウィンドウ

3. [次へ] をクリックします。

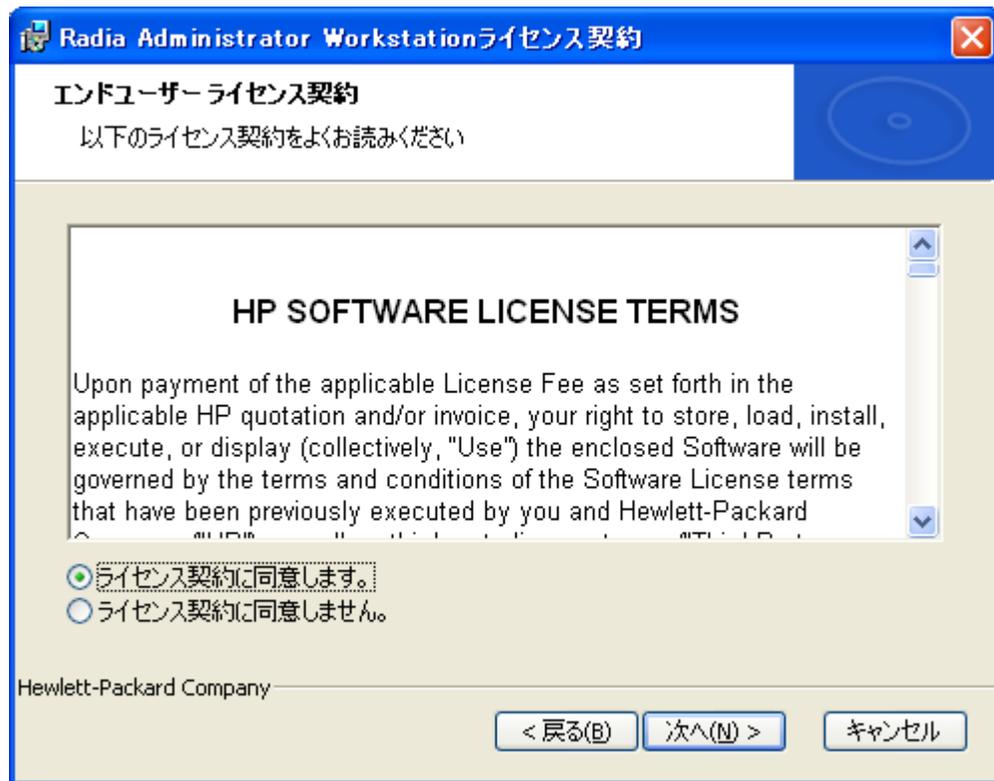


図 2.2 ~ [HP Software License Terms] ウィンドウ

4. HP ソフトウェア ライセンス条件を読み、同意します。[次へ] をクリックします。

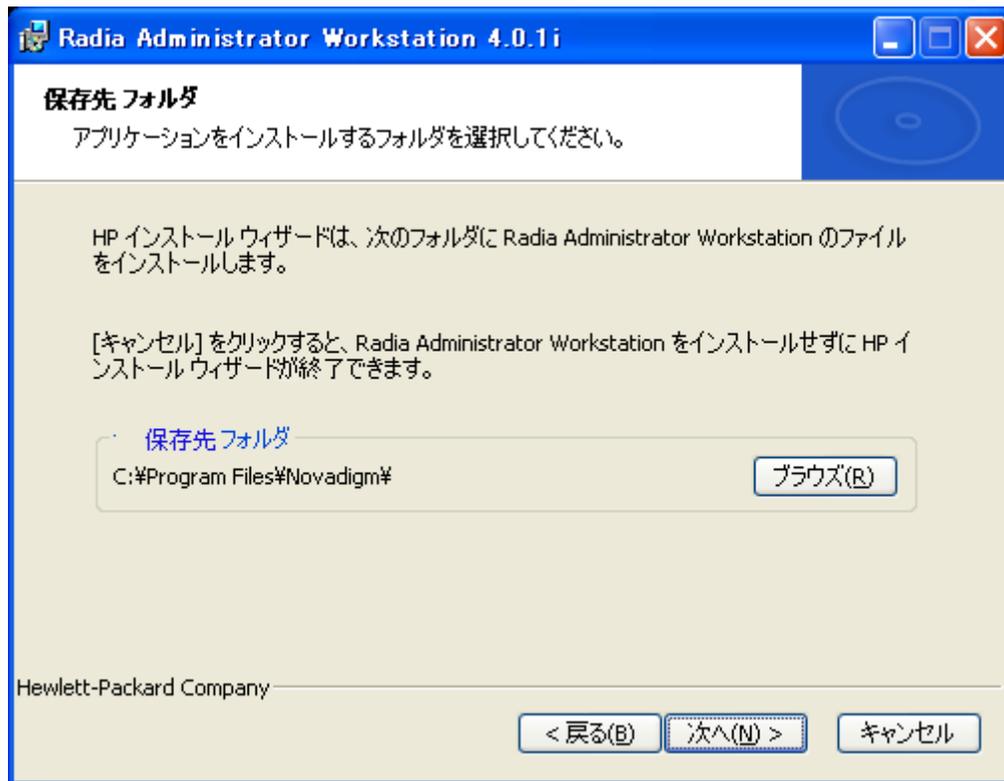


図 2.3 ~ Radia Administrator Workstation のインストール ディレクトリの選択

5. デフォルトでは、Radia Administrator Workstation のインストール先は C:\Program Files\Novadigm です。別のディレクトリにインストールするには、[ブラウズ] をクリックし、手動で新しいディレクトリを選択します。

6. [次へ] をクリックします。

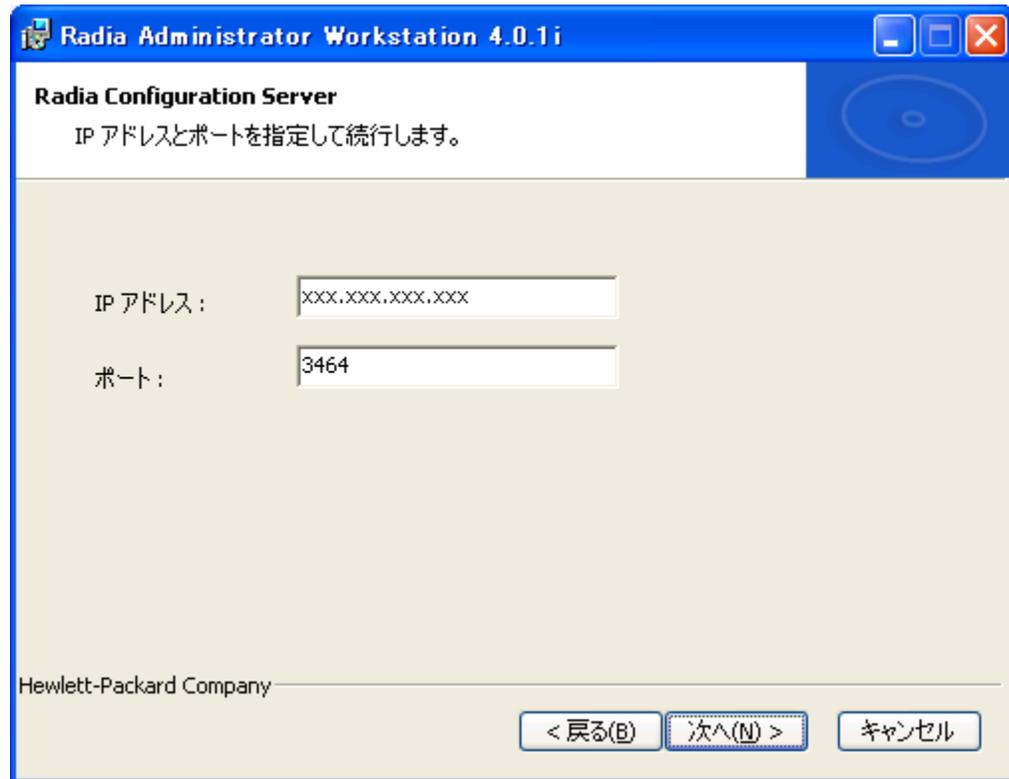


図 2.4 ~ Radia Configuration Server の指定

7. Radia Configuration Server の IP アドレスまたはホスト名、およびポート番号を入力します。

8. [次へ] をクリックします。



図 2.5 ~ Radia Administrator Workstation 機能の選択

9. インストールする Radia Administrator Workstation の機能を選択します。デフォルトではすべての機能がインストールされます。
個別の機能のインストールを無効にするには、機能名の左側にある下向き矢印をクリックし、[機能をすべて無効] をクリックします。

10. インストールする Radia Administrator 機能を選択したら、[次へ] をクリックします。

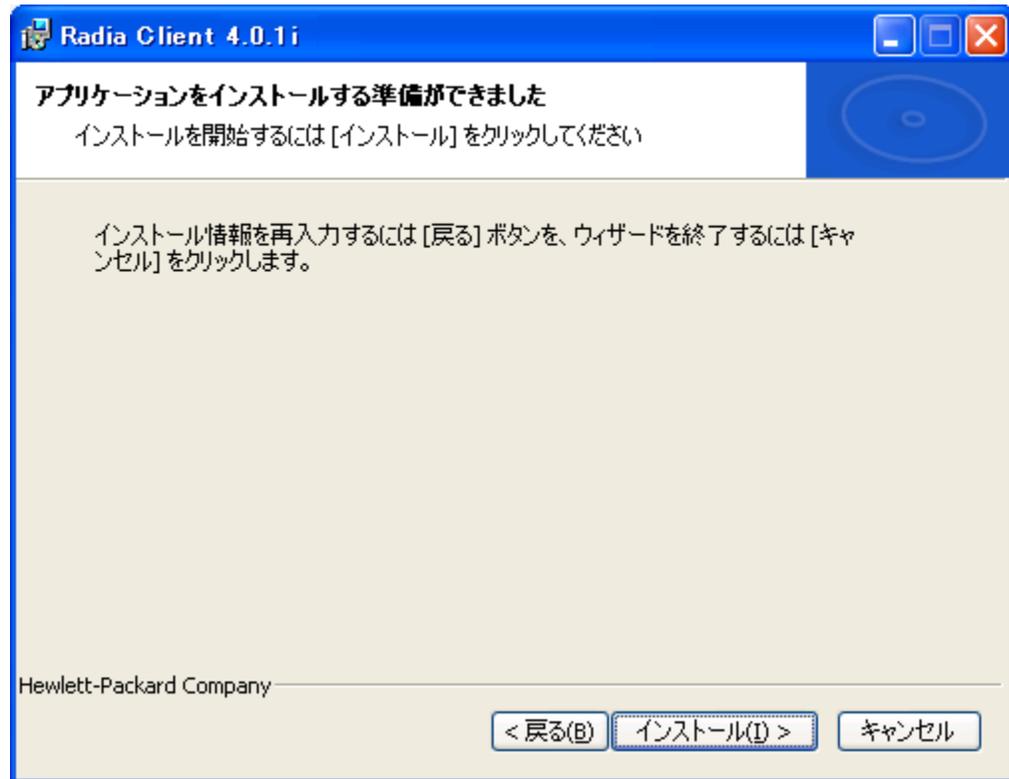


図 2.6 ~ [アプリケーションをインストールする準備ができました] ウィンドウ

11. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。
インストールが完了したら、[完了] をクリックします。

まとめ

- .msi ファイルをパブリッシュするには、**Radia データベース バージョン 3.1** 以上が必要です。
- **Radia Administrator Workstation** をインストールする前に、**Radia Configuration Server** の IP アドレスまたはホスト名、およびポート番号を準備しておきます。
- **Radia Administrator Workstation** 機能は、すべてインストールすることも一部のみのインストールすることもできます。

Radia Publisher を使用してファイルのパブリッシュする

この章は以下を目的としています。

- Radia Publisher が使用してパブリッシュできるファイルのタイプに精通する。
- さまざまなタイプのファイルをパブリッシュするプロセスについて理解する。

概要

Radia Publisher では、Windows インストーラ ファイルおよびオペレーティング システム イメージの Radia データベースへのパブリッシュがサポートされています。以降に、各ファイル タイプをパブリッシュするために必要な手順について説明します。

また、Radia Publisher では "バッチ モード" でファイルがパブリッシュできます。バッチ モードを利用すると、1 回のパブリッシュ セッション中に 1 つの設定ファイルを使って、複数の .msi ファイルが Radia データベースにパブリッシュできます。詳細については、55 ページの「複数の .msi ファイルをパブリッシュする (バッチ モード)」を参照してください。

Windows インストーラ ファイルをパブリッシュする

Windows インストーラは、MSI ファイルを使用してオペレーティング システムにソフトウェア パッケージを配布します。Radia Publisher では、この MSI ファイルを使って Radia パッケージおよび Radia サービスを作成し、Radia データベースにパブリッシュします。Radia データベースに格納されたソフトウェア パッケージは、いつでもネットワーク環境に配布できる状態となります。

Windows インストーラ ファイルをパブリッシュするには

1. デスクトップのアイコンをダブルクリックして Radia Publisher を起動します。



図 3.1 ~ ログイン情報

2. [ユーザー ID] フィールドに、Radia 管理者のユーザー ID を入力します。
3. [パスワード] フィールドに、Radia 管理者パスワードを入力します。
4. [パブリッシュするデータのタイプ] ボックスの一覧から [Windows インストーラ] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。



図 3.2 ~ パブリッシュする Windows インストーラ ファイルの選択

6. エクスプローラ ウィンドウで **Windows** インストーラ ファイルを探して選択します。右側のペインに、選択した **MSI** ファイルに設定されている情報が表示されます。
7. **[パブリッシュ モード]** セクションで、**[基本]** または **[詳細]** のいずれかをクリックします。
パブリッシュ モードで **[詳細]** をクリックした場合、次の手順で管理インストール ポイント (AIP: Administrative Installation Point) を作成し、ファイル機能やプロパティ管理などの詳細な管理機能を有効にする必要があります。
8. **[次へ]** をクリックします。

パブリッシュ モード: 詳細なパブリッシュと基本のパブリッシュ

選択するパブリッシュ モードによって、**[選択]** ウィンドウでファイルを選択し **[次へ]** をクリックした後には使用できるオプションの種類が異なります。

詳細なパブリッシュ モード

詳細なパブリッシュ モードには7つのオプションがあります。任意のリンクをクリックして、詳細なパブリッシュ モードのオプションを設定します。



図 3.3 ~ 詳細なパブリッシュ モードのオプション

- **【管理インストール ポイント】**
必要なフィールドに入力して管理インストール ポイント (AIP) を作成します。

注意

AIP パッケージをサービスに接続するには、**【AIP パッケージをサービスに接続】** チェックボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにすると、AIP パッケージがサービスに接続され、ZSTOP000 は 1 に設定されます。この結果、AIP パッケージはデスクトップに配布されませんが、Radia Distributed Configuration Server の稼動中、サービスへの接続が保証されます。

- **【インストール シミュレータ】**
アプリケーション インストール プログラムを実行します。
- **【機能】**
利用可能な MSI 機能を設定します。
- **【プロパティ】**
利用可能な MSI プロパティを設定します。
- **【変換】**
Windows インストーラ ファイルに関連付けられた変換ファイルの適用を再設定します。
- **【マシン/ユーザー】**
Radia マシン/ユーザーのパラメータを定義します。
- **【アップグレード】**
現在の Windows インストーラ パッケージを使用してアップグレード可能な、Radia データベース内にある既存の MSI パッケージを表示します。

基本パブリッシュ モード

基本パブリッシュ モードには4つのオプションがあります。任意のリンクをクリックして、基本パブリッシュ モードのオプションを設定します。

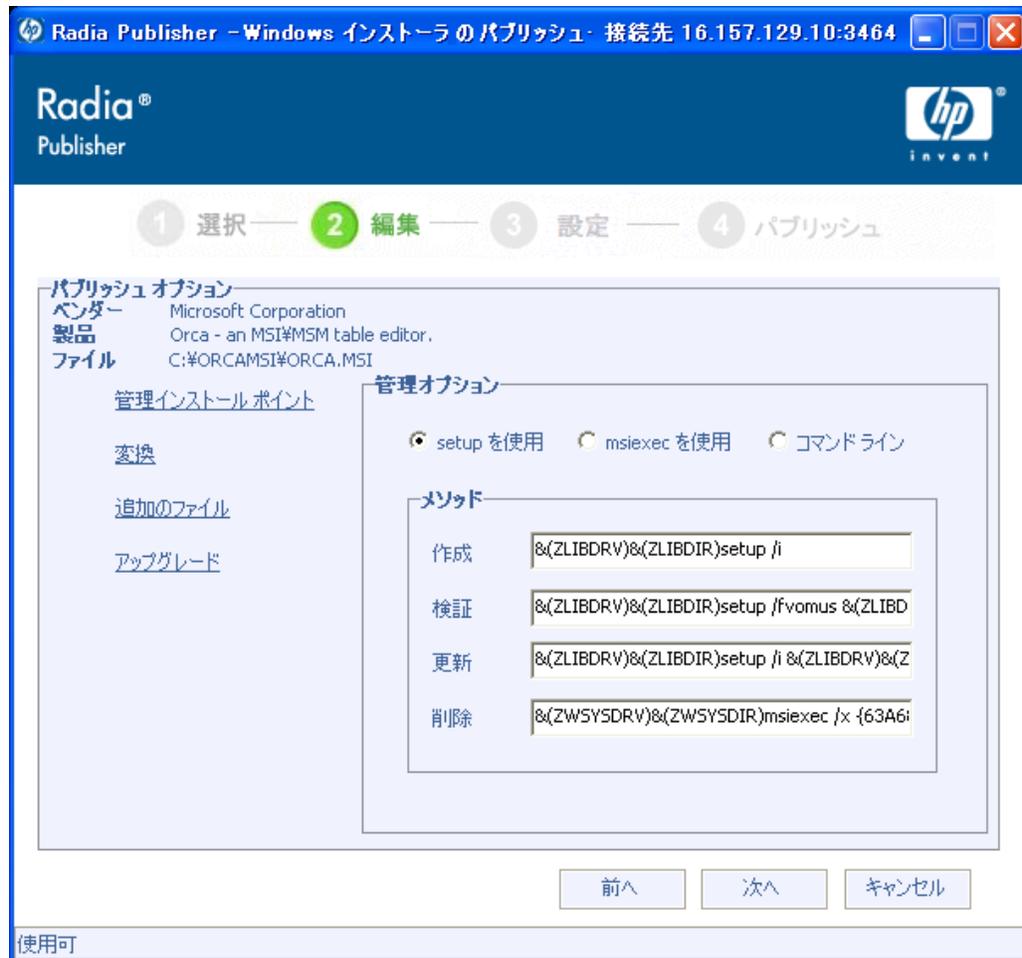


図 3.4 ~ 基本パブリッシュ モードのオプション

- **【管理オプション】**
適用する管理オプションを選択します。選択した管理オプションに従って、配布後のアプリケーションの実行方法が定義されます。
 - **【setup を使用】**
 - **【msiexec を使用】**
 - **【コマンドライン】**
- **【変換】**
Windows インストーラ ファイルに関連付けられた変換ファイルの適用を再設定します。
- **【追加のファイル】**
利用可能な追加ファイルを適用します。
- **【アップグレード】**
現在の Windows インストーラ パッケージを使用してアップグレード可能な、Radia データベース内にある既存の MSI パッケージを表示します。

パブリッシュ オプションの編集が終わったら、[次へ] をクリックします。

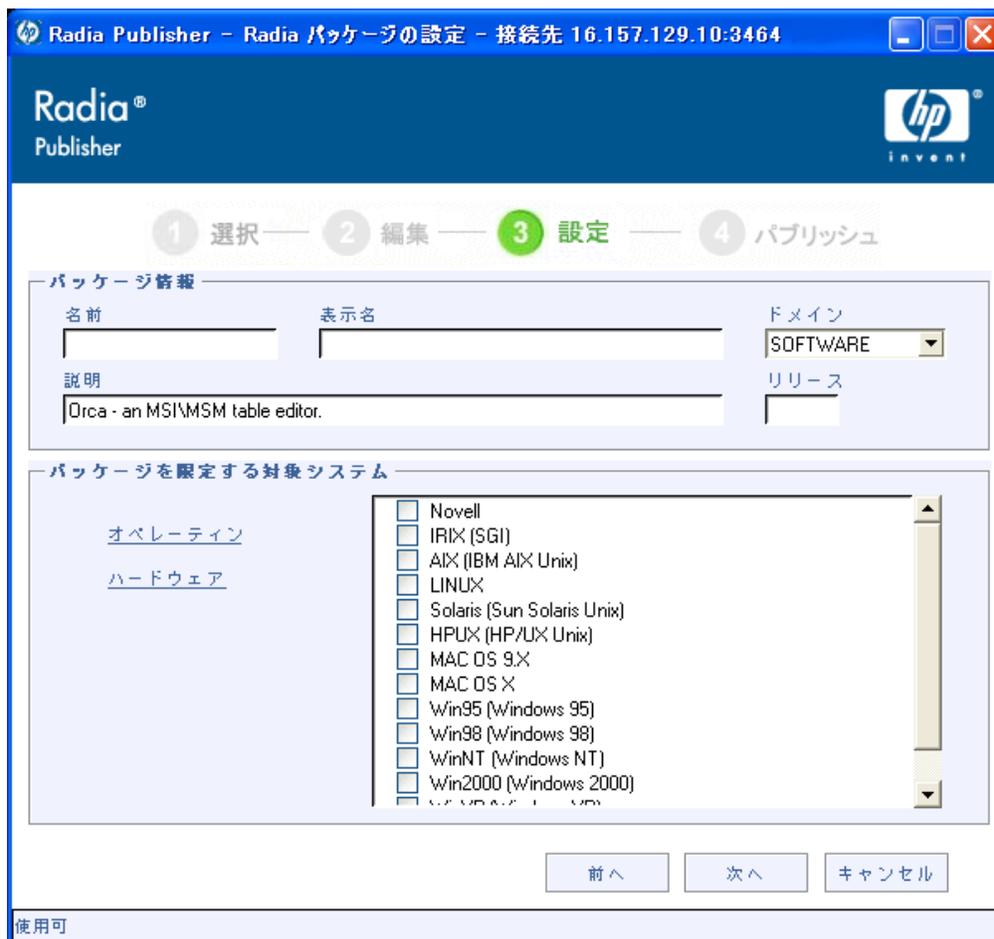


図 3.5 ~ [パッケージ情報] ウィンドウ

Radia Publisher を使用してファイルをパブリッシュする

1. [パッケージ情報] セクションで Radia パッケージの情報を入力します。
2. [パッケージを限定する対象システム] セクションを使用して、パッケージを特定のオペレーティングシステムまたはハードウェアに限定します。リンクをクリックすると、設定可能なオプションが表示されます。
3. [次へ] をクリックします。

Radia Publisher - Radia サービスの設定 - 接続先 16.157.129.13:3464

Radia®
Publisher

hp
invent

1 選択 — 2 編集 — 3 設定 — 4 パブリッシュ

サービス情報

新規作成 既存のサービスを使用 サービスなし

名前

ベンダー

説明

表示名

Web URL

作成者

割り当てのタイプ

必須 オプション

管理のタイプ

自動 手動

イベントについてのレポート

使用するベース インスタンス

インストール	<input checked="" type="checkbox"/>	成功	<input checked="" type="checkbox"/>	失敗
削除	<input checked="" type="checkbox"/>	成功	<input checked="" type="checkbox"/>	失敗
更新	<input checked="" type="checkbox"/>	成功	<input checked="" type="checkbox"/>	失敗
検証	<input type="checkbox"/>	成功	<input checked="" type="checkbox"/>	失敗
修復	<input type="checkbox"/>	成功	<input checked="" type="checkbox"/>	失敗

前へ 次へ キャンセル

使用可

図 3.6 ~ [サービス情報] ウィンドウ

4. 新しいサービスを作成する ([新規作成])、既存のサービスを使用する ([既存のサービスを使用])、現時点ではサービスを作成しない ([サービスなし])、のいずれかを選択します。

注意

パッケージの作成のみ行う場合は、[サービスなし] をクリックします。サービスが1つあり、複数のパッケージを作成して後から Radia System Explorer を使ってそのサービスにこれらのパッケージを接続する場合などに便利です。

5. サービスの説明となる各テキストボックスに、適切な情報を入力します。既存のサービスを使用する場合は、そのサービス名を正確に入力します。
6. [割り当てのタイプ] セクションで、サービスが必須かオプションかを選択します。デフォルトでは [必須] が選択されています。この場合、有効なすべてのサブスクリバにそのサービスが配布されます。オプションのサービスは、Radia Software Manager クライアントを使用しているときのみ指定可能です。必須サービスおよびオプションサービスの詳細については、『Radia Application Manager ガイド』および『Radia Software Manager ガイド』を参照してください。
7. [管理のタイプ] セクションで、配布後のアプリケーションの管理方法を指定します。

管理のタイプと割り当てのタイプは、ZSVCMO サービスの属性値に対応しています。ZSVCMO の詳細については、『Radia Application Manager ガイド』および『Radia Software Manager ガイド』を参照してください。このフィールドには、各タイプの選択内容に応じて2つの値が格納できます。下の「表3.1 ~ ZSVCMO 変数」に、設定可能な属性値を示します。

表 3.1 ~ ZSVCMO 変数

割り当てのタイプ	管理のタイプ	対応する ZSVCMO 値	説明
[必須]	[自動]	M	サービスはすべてのサブスクリバに配布され、Radia によって管理されます。
[必須]	[手動]	MO	サービスはすべてのサブスクリバに配布されます。Radia は配布後のサービスを管理しません。
[オプション]	[自動]	OM	サービスは設定されたサブスクリバのみに配布されます。サービスは Radia によって管理されます。
[オプション]	[手動]	O	サービスは設定されたサブスクリバのみに配布されます。Radia は配布後のサービスを管理しません。

8. [イベントについてのレポート] セクションで、記録を残すイベントの横にある各チェックボックスをオンにします。詳細については、『Radia Application Manager ガイド』および『Radia Software Manager ガイド』を参照してください。
9. [次へ] をクリックします。
[パブリッシュ] ウィンドウが表示されます。



図 3.7 ~ [パブリッシュ] ウィンドウ

10. [要約] セクションで、ここまでの手順で設定したパッケージおよびサービスの情報を確認します。確認したら、[パブリッシュ] をクリックします。

11. パブリッシュ プロセスが完了したら、[完了] をクリックして **Radia Publisher** を終了します。
Radia System Explorer を使用して、オペレーティング システムのパッケージまたはサービスを
 表示します。

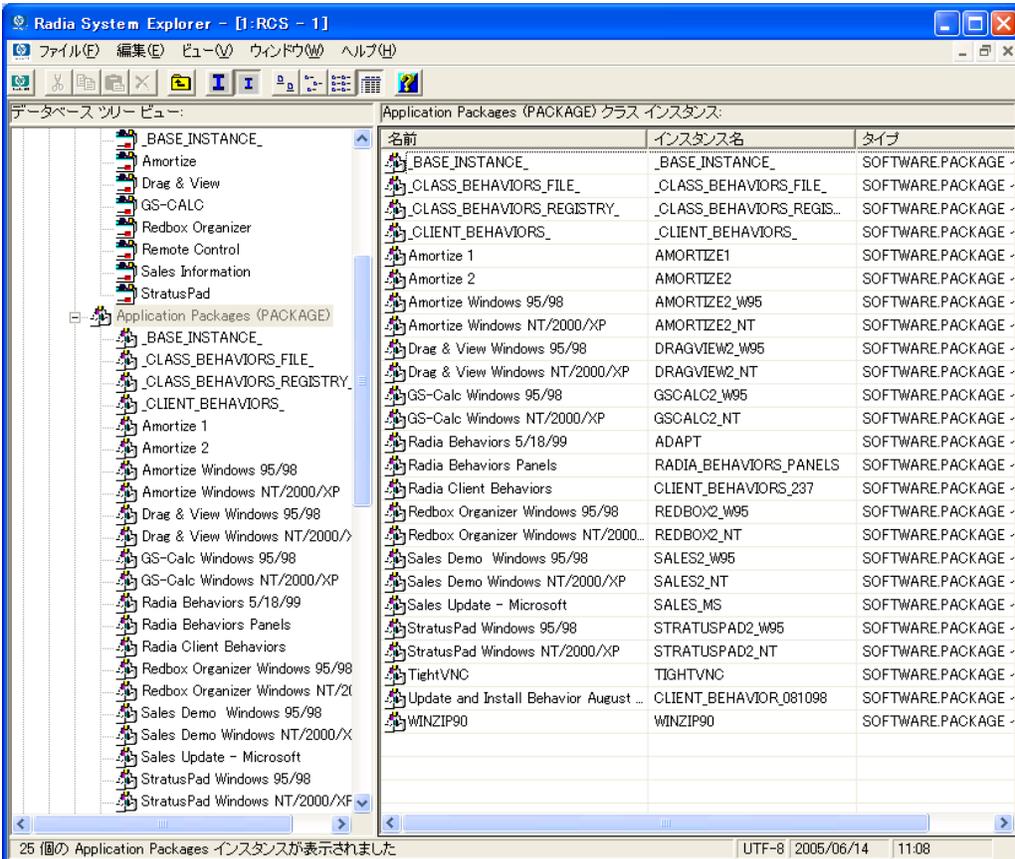


図 3.8 ~ Radia System Explorer に表示された新しい Radia パッケージおよび Radia サービス

これで、サービスを配布する準備が整いました。

.MSP ファイルを使用して既存のパッケージをアップグレードする

32 ページの手順 6 で、パブリッシュするファイルに Microsoft パッチ ファイル (.msp) を指定した場合、[パブリッシュ オプション] ウィンドウに表示されるオプションは[アップグレード]のみとなります。選択したファイルが使用してアップグレードできる、Radia データベース内の該当するすべてのパッケージが表示されます。ウィンドウの右側に表示されるリストから、アップグレードするパッケージを選択します。



図 3.9 ~ [アップグレード] オプションのみ使用可能 (パッチ ファイル (.msp) 選択時)

既存のパッケージの機能またはプロパティを使用するには、ウィンドウの下部にある [使用する対象] セクションの対応するチェック ボックスをオンにします。既存のパッケージの機能とプロパティの両方を使用する場合は、チェック ボックスを 2 つともオンにします。

別の Windows インストーラ ファイルを使用して既存のパッケージをアップグレードすることもできます。[アップグレード] オプションは、詳細なパブリッシュ モードで Windows インストーラ ファイル (.msi) をパブリッシュするときにも使用可能です。

注意

Radia Publisher は、アップグレード用の新しいパッケージを作成します。作成した新しいアップグレード パッケージを Radia データベースにパブリッシュしたら、Radia System Explorer を使用して、そのパッケージを既存のパッケージに手動で接続します。

オペレーティング システム イメージをパブリッシュする

Radia Publisher では、以下のオペレーティング システム イメージ ファイルがサポートされています。

- オペレーティング システム イメージ ファイル (.IMG)
- Power Quest イメージ ファイル (.PQI)

イメージ ファイルがパブリッシュされると、Radia データベースの OS ドメインに Radia パッケージが追加されます。パブリッシュの手順を実行中にサービスを作成すると、OS ドメインの ZSERVICE クラスに Radia サービスが追加されます。

イメージ ファイルだけでなく、Sysprep.inf ファイルのパブリッシュも可能です。Sysprep.inf ファイルがデータベースにパブリッシュされると、SPRP_ というプレフィックスが付き、OS ドメインの SYSPREP クラスに格納されます。

注意

Sysprep.inf ファイルは、圧縮されていない状態でパブリッシュする必要があります。

オペレーティング システム イメージをパブリッシュするには

1. Radia Publisher を起動します。



図 3.10 ~ ログイン情報

2. [ユーザー ID] フィールドに、Radia 管理者のユーザー ID を入力します。
3. [パスワード] フィールドに、Radia 管理者パスワードを入力します。
4. OS イメージまたは Sysprep.inf ファイルをパブリッシュするには、[パブリッシュするデータのタイプ] ボックスの一覧の [OS イメージ] をクリックします。

5. [OK] をクリックします。
[選択] ウィンドウが表示されます。

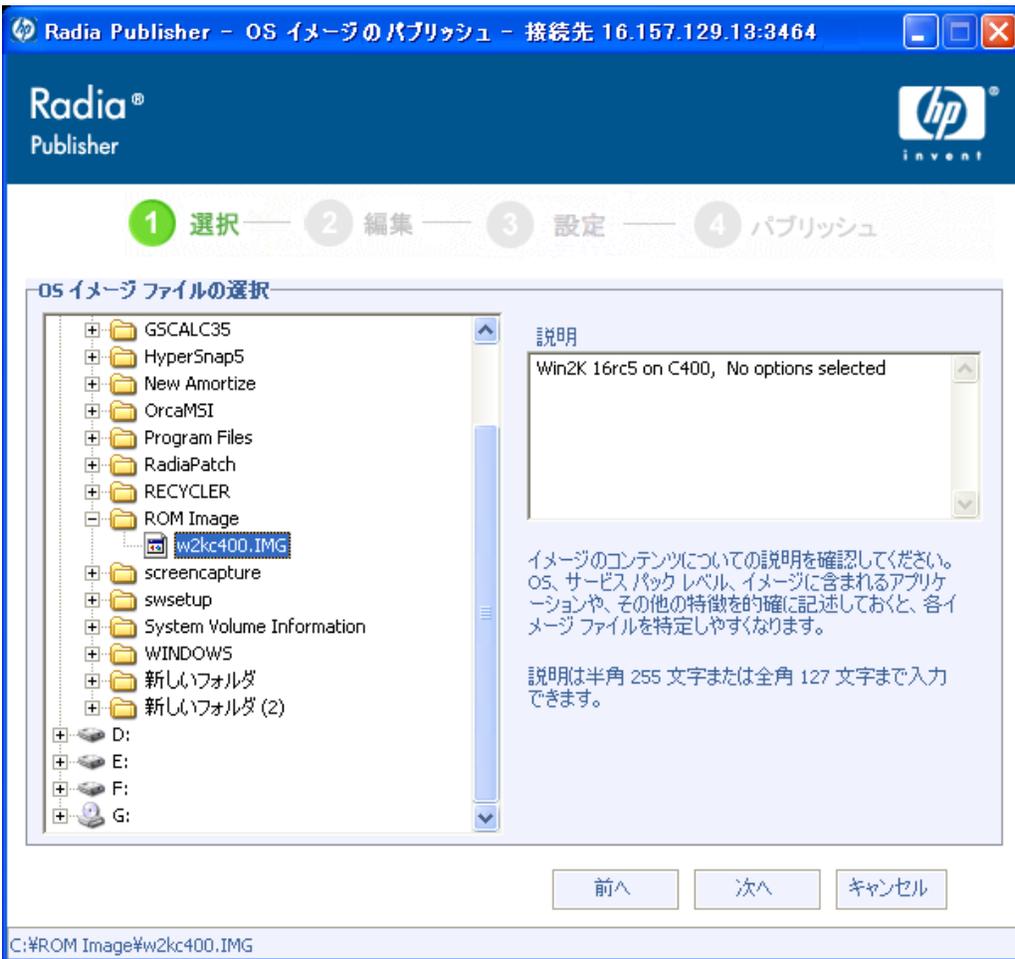


図 3.11 ~ パブリッシュするオペレーティングシステム イメージ ファイルの選択

6. **[選択]** ウィンドウで、パブリッシュするファイルを探して選択します。

Sysprep.inf ファイルについての注意

Sysprep.inf ファイルを選択した場合、SYSPREP インスタンス名の入力を求められます。**[次へ]** をクリックすると、最後の手順に直接進みます。

SYSPREP ファイルは、Radia データベースの OS ドメイン内の SYSPREP クラスにパブリッシュされます。パブリッシュされたインスタンスを表示するには Radia System Explorer を使用します。

7. **[説明]** ウィンドウでファイルを確認してから続行します。必要に応じて、**[説明]** に情報を追加することもできます。

8. [次へ] をクリックします。
次の手順は省略され、[パッケージ情報] ウィンドウが表示されます。

Radia Publisher - Radia パッケージの設定 - 接続先 16.157.129.10:3464

Radia®
Publisher

hp
invent

1 選択 — 2 編集 — 3 設定 — 4 パブリッシュ

パッケージ情報

名前 表示名 ドメイン
 表示名 W2KC400 OS

説明 リリース
Win2K 16rc5 on C400, No options selected

パッケージを限定する対象システム

オペレーティング システム
ハードウェア

前へ 次へ キャンセル

使用可

図 3.12 ~ OS イメージのパッケージ情報

9. [パッケージ情報] セクションで、Radia パッケージの情報を入力します。オペレーティング システム イメージをパブリッシュする場合、[パッケージを限定する対象システム] セクションは使用できません。

10. [次へ] をクリックします。
[サービス情報] ウィンドウが表示されます。

Radia Publisher - Radia サービスの設定 - 接続先 16.157.129.13:3464

Radia®
Publisher

hp
invent

1 選択 — 2 編集 — 3 設定 — 4 パブリッシュ

サービス情報

新規作成 既存のサービスを使用 サービスなし

名前 _____ 表示名 _____

ペンダー _____ Web URL _____

説明 _____ 作成者 _____

割り当てのタイプ

必須 オプション

管理のタイプ

自動 手動

イベントについてのレポート

使用するベースインスタンス

インストール	<input checked="" type="checkbox"/> 成功	<input checked="" type="checkbox"/> 失敗
削除	<input checked="" type="checkbox"/> 成功	<input checked="" type="checkbox"/> 失敗
更新	<input checked="" type="checkbox"/> 成功	<input checked="" type="checkbox"/> 失敗
検証	<input type="checkbox"/> 成功	<input checked="" type="checkbox"/> 失敗
修復	<input type="checkbox"/> 成功	<input checked="" type="checkbox"/> 失敗

前へ 次へ キャンセル

使用可

図 3.13 ~ OS イメージのサービス情報

11. 新しいサービスを作成する ([新規作成]), 既存のサービスを使用する ([既存のサービスを使用]), 現時点ではサービスを作成しない ([サービスなし]), のいずれかを選択します。

注意

パッケージの作成のみ行う場合は、[サービスなし] をクリックします。サービスが 1 つあり、複数のパッケージを作成して後から Radia System Explorer を使ってそのサービスにそれらのパッケージを接続する場合などに便利です。

12. サービスの説明となる各テキストボックスに、適切な情報を入力します。既存のサービスを使用する場合は、そのサービス名を正確に入力します。
13. [割り当てのタイプ] セクションで、サービスが必須かオプションかを選択します。デフォルトでは [必須] が選択されています。この場合、有効なすべてのサブスクリイバにそのサービスが配布されます。オプションのサービスは、**Radia Software Manager** クライアントを使用しているときのみ指定可能です。必須サービスおよびオプション サービスの詳細については、『**Radia Application Manager ガイド**』および『**Radia Software Manager ガイド**』を参照してください。
14. [管理のタイプ] セクションで、配布後のアプリケーションの管理方法を指定します。

管理のタイプと割り当てのタイプは、ZSVCMO サービスの属性値に対応しています。ZSVCMO の詳細については、『**Radia Application Manager ガイド**』および『**Radia Software Manager ガイド**』を参照してください。各タイプの選択内容に応じて、このフィールドには 2 つの値が格納できます。下の「表 3.2~ ZSVCMO 変数」に、設定可能な属性値を示します。

表 3.2~ ZSVCMO 変数

割り当てのタイプ	管理のタイプ	対応する ZSVCMO 値	説明
[必須]	[自動]	M	サービスはすべてのサブスクリイバに配布され、Radia によって管理されます。
[必須]	[手動]	MO	サービスはすべてのサブスクリイバに配布されます。Radia は配布後のサービスを管理しません。
[オプション]	[自動]	OM	サービスは設定されたサブスクリイバのみに配布されます。サービスは Radia によって管理されます。
[オプション]	[手動]	O	サービスは設定されたサブスクリイバのみに配布されます。Radia は配布後のサービスを管理しません。

15. [イベントについてのレポート] セクションで、記録を残すイベントの横にある各チェックボックスをオンにします。詳細については、『**Radia Application Manager ガイド**』および『**Radia Software Manager ガイド**』を参照してください。

16. [次へ] をクリックします。
[パブリッシュ] ウィンドウが表示されます。



図 3.14 ~ OS イメージのパブリッシュ セッションの完了

17. [要約] セクションで、ここまでの手順で設定したパッケージおよびサービスの情報を確認します。
確認したら、[パブリッシュ] をクリックします。

18. パブリッシュ プロセスが完了したら、[完了] をクリックして **Radia Publisher** を終了します。

Radia System Explorer を使用して、OS ドメイン内のオペレーティング システムのパッケージまたはサービスを表示します。

注意

SYSPREP ファイルは、Radia データベースの OS ドメイン内の SYSPREP クラスにパブリッシュされます。パブリッシュしたインスタンスを表示するには **Radia System Explorer** を使用します。

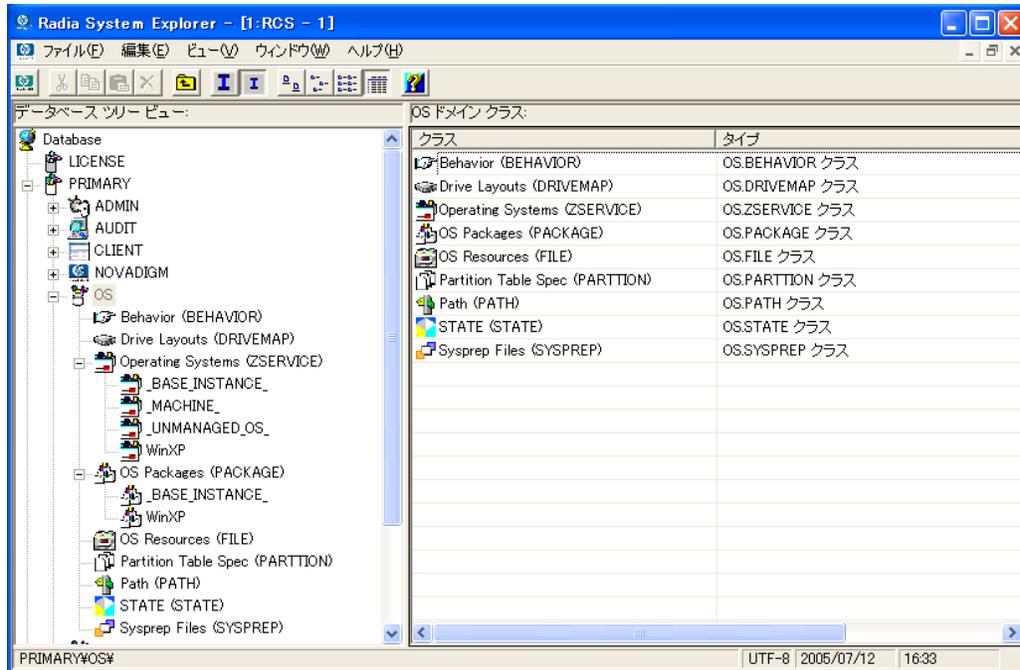


図 3.15 ~ Radia System Explorer に表示された OS パッケージおよびサービス

これで、サービスを配布する準備が整いました。

コマンドラインによるパブリッシュ

Radia Publisher では、グラフィカルインターフェイス以外のパブリッシュ モードもサポートされています。GUI によるパブリッシュ時に入力する値の代わりに、設定ファイルで事前定義された値が使用されます。設定ファイルを使用すると、パッケージやサービスの値を事前に定義して、テキスト ファイルに保存しておくことができます。その後、**-cfg** パラメータでパブリッシュセッション中に使用する設定ファイルを指定し、コマンドラインから Radia Publisher が実行できます。

test.cfg という設定ファイルを使用して Radia Publisher を実行するコマンドラインの例を次に示します。

```
hide nvdkit nvdtk.exe/main.tcl pubport.tkd -cfg  
"c:\¥program files¥novadigm¥test.cfg"
```

注意

設定ファイルを指定する時は、フルパスのファイル名を使用してください。

下の「表 3.3 ~ 設定ファイルのパラメータ」に、設定ファイルのパラメータを定義します。

表 3.3 ~ 設定ファイルのパラメータ

パラメータ	説明
package	PACKAGE クラス インスタンスの名前を定義します。
pkgname	PACKAGE クラス インスタンスの簡略名 (NAME 属性) を指定します。
pkgdesc	PACKAGE クラス インスタンスの説明 (DESCRIPT 属性) を指定します。
service	オプションで作成される ZSERVICE クラス インスタンスの名前を定義します。
svcname	ZSERVICE インスタンスの簡略名 (NAME 属性) を指定します。ZSVCNAME 属性もこの値から設定します。
svcdesc	ZSERVICE クラス インスタンスの説明 (DESCRIPT 属性) を指定します。
addtosvc	このセッションのサービス インスタンスを作成するかどうかを指定します。 1 = サービスを作成します 0 = 作成しません
path	パッケージがパブリッシュされるファイルやドメインの Radia データベース パス (たとえば PRIMARY.SOFTWARE) を定義します。

表 3.3 ~ 設定ファイルのパラメータ

パラメータ	説明
attr CLASS {body}	<p>転送する時に追加されるインスタンスの属性値。CLASS の値として指定できるのは、PACKAGE と ZSERVICE のみです。この 2 つのクラスの値は、ユーザー インターフェイスではサポートされていなくてもコマンド ラインに渡すことができます。次に例を示します。</p> <pre> attr ZSERVICE { AUTHOR {John J. User} URL {http://www.nowhere.com} OWNER {Microsoft Corp} } attr PACKAGE { RELEASE {1.0} } </pre> <p>値は中かっこ ({ }) で囲む必要があります。</p>
msi {body}	<p>MSI ユーザー インターフェイスの設定を指定します。以下の値が設定できます。</p> <p>aiplocation 必要に応じて AIP の作成場所を指定します。</p> <p>publishmode 詳細なパブリッシュまたは基本パブリッシュを指定します。</p> <p>execui AIP 作成時の MSI のユーザー インターフェイスの実行方法を定義します。設定可能な値は Full、Basic、または None です。</p> <p>deleteaip パブリッシュ後に AIP を削除するかどうかを指定します。</p> <p>aiparguments AIP 作成用のオプションの引数です。</p> <p>enableperuser このパッケージのユーザーごとのインストールを無効にする (N) かどうかを指定します。または、S (ショートカット)、R (レジストリ)、E (プライベート exe)、D (プライベート dll) の各値を組み合わせることもできます。たとえば、「SD」を指定すると、ショートカットおよびプライベート dll のユーザーごとのインストールが有効になります。</p> <p>msi セクションの例を次に示します。</p> <pre> msi { aiplocation {c:%testaip} publishmode advanced execui none deleteaip n aiparguments "" enableperuser sre } </pre> <p>注意: 値は大文字と小文字が区別されます。</p>

下の「[図3.16 ~ サンプル 設定ファイル](#)」に、サンプル設定ファイルを示します。

```
pkgname      MYTESTPKG
package      CJMTEST
pkgdesc      {This is a test package}
path         PRIMARY.SOFTWARE

addtosvc     1
service      CJMTESTS
svcname      MYTESTSVC
svcdesc      {This is a test service}

attr PACKAGE {
    RELEASE 1.0
    BEHAVIOR
}

attr ZSERVICE {
    AUTHOR      me
    URL         {HTTP://WWW.NOWHERE.COM}
    OWNER       {Microsoft Corp.}
    PRICE       {5}
}
msi {
    aiplocation {g:¥aip}
    publishmode advanced
    deleteaip   n
    aiparguments {}
    enableperuser n
}
```

図 3.16 ~ サンプル 設定ファイル

コマンドラインでパブリッシュするファイルを定義する

コマンドラインで設定ファイルを定義するほかに、パブリッシュするファイルを定義することもできます。パブリッシュ セッションで使用するファイルを定義するには、**-file** パラメータを使用します。

```
hide nvdkit nvdtk.exe/main.tcl pubport.tkd -cfg "c:¥program files¥novadigm
¥test.cfg" -file "c:¥program files¥Novadigm¥testfile"
```

複数の .msi ファイルをパブリッシュする (バッチ モード)

Radia Publisher では、1 回のパブリッシュ セッションで、複数の .msi ファイルが Radia データベースにパブリッシュできます。これを実行するには、コマンドラインから Radia Publisher を呼び出し、**-batchmsi** パラメータを使って場所を指定します。この指定された場所とすべてのサブディレクトリが Radia Publisher によってスキャンされ、.msi ファイル、設定ファイルまたは変換 (.mst) ファイルが検出されます。

注意

Radia Publisher で複数の .msi ファイルをまとめてパブリッシュする場合、コマンドラインを使用して単独の .msi ファイルをパブリッシュする場合とは異なり、コマンドラインパラメータ **-cfg** で設定ファイルを指定することはできません。その代わりに、.msi ファイルのディレクトリ内に少なくとも 1 つの設定ファイルが格納されている必要があります。

各ディレクトリには、Radia データベースにパブリッシュされる Radia パッケージのコンポーネント (設定ファイル、利用可能な変換ファイル、1 つ以上の .msi ファイルなど) が格納されていなければなりません。

指定した場所に配置されたファイルは、以下の簡単な規則に準拠する必要があります。

- 1 つのディレクトリに複数の .msi ファイルがある場合、エラーが記録され、パブリッシュ セッションのスキャンが続行します。
- 1 つのディレクトリに複数の設定ファイルがある場合、エラーが記録され、パブリッシュ セッションのスキャンが続行します。

Radia Publisher を使用してファイルをパブリッシュする

- 必要に応じて、検出されたすべての **.msi** ファイルに対して使用する設定ファイルが 1 つに限定できます。ルート ディレクトリの場所で見つかった設定ファイルが 1 つのみの場合は、以降に検出されるすべての **.msi** ファイルにその設定ファイルが適用されます。この後、この章で後述するシンボリック置換を使用して各パッケージの一意の名前を定義します。
- スキャンが成功するためには、ルート ディレクトリの場所に少なくとも 1 つの設定ファイルが必要です。

Radia Publisher を実行し、スキャンする場所を指定するコマンド ラインのサンプルを示します。

```
hide nvdkit nvdtk.exe/main.tcl pubport.tkd -batchmsi "c:¥msifileslocation"
```

この例では、Radia Publisher はディレクトリ "c:¥msifileslocation" とすべてのサブディレクトリをスキャンして、**.msi** ファイル、設定ファイルまたは変換ファイルを検出します。

パブリッシュ セッションが終了したら、log ディレクトリ内の **publisher.log** ファイルを参照してセッションを検証します。

複数の設定ファイルを使用する

この章で後述するように、シンボリック置換を使用して一意のパッケージ名を割り当てる場合、パブリッシュするすべての .msi ファイルに必要な設定ファイルは 1 つのみです。ただし、各 .msi に異なる設定ファイルを適用する場合は、.msi のディレクトリ内に、適用する設定ファイルを個別に配置する必要があります。

あるディレクトリ内で設定ファイルが検出されると、その後と同じディレクトリ内で検出された .msi ファイル、および各サブディレクトリ内の .msi ファイルに適用されます。この設定ファイルは、別の設定ファイルが検出されるまで使用されます。

たとえば、58 ページの「[図3.18 ~ ディレクトリ構造内の設定ファイル](#)」に表示されている **Acrobat Reader 6.msi** ファイルは、/Acrobat Reader 6.0 ディレクトリ内に設定ファイルがないため、ルートディレクトリ /Adobe MSI Apps to Publish にある設定ファイル **global.cfg** を使用します (下の「[図3.17 ~ 設定ファイルが格納されているルートディレクトリ](#)」を参照)。

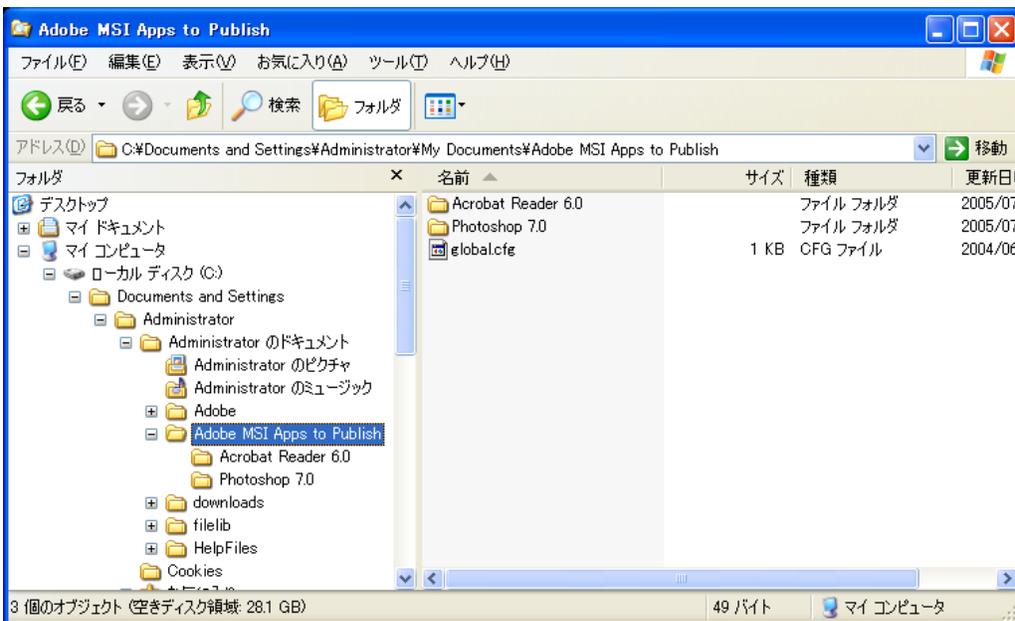


図 3.17 ~ 設定ファイルが格納されているルートディレクトリ

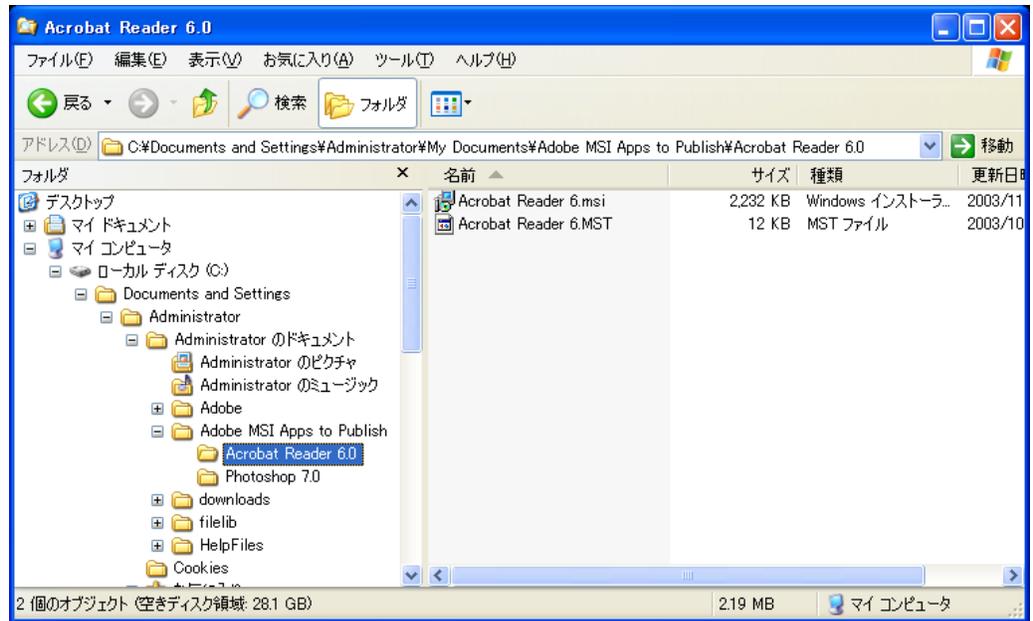


図 3.18 ~ ディレクトリ構造内の設定ファイル

変換 (.mst) ファイルを格納する

.msi ファイルに複数の変換ファイルを適用するには、その .msi ファイルと同じディレクトリ内に該当する変換ファイルを格納します。変換ファイルは、ディレクトリを共有している .msi ファイルにのみ適用されます。

下の「[図3.19](#)～ディレクトリ構造内の変換ファイル」に表示されている2つの変換ファイルは、どちらもパブリッシュ時に **Photoshop 7.msi** パッケージに格納されます。

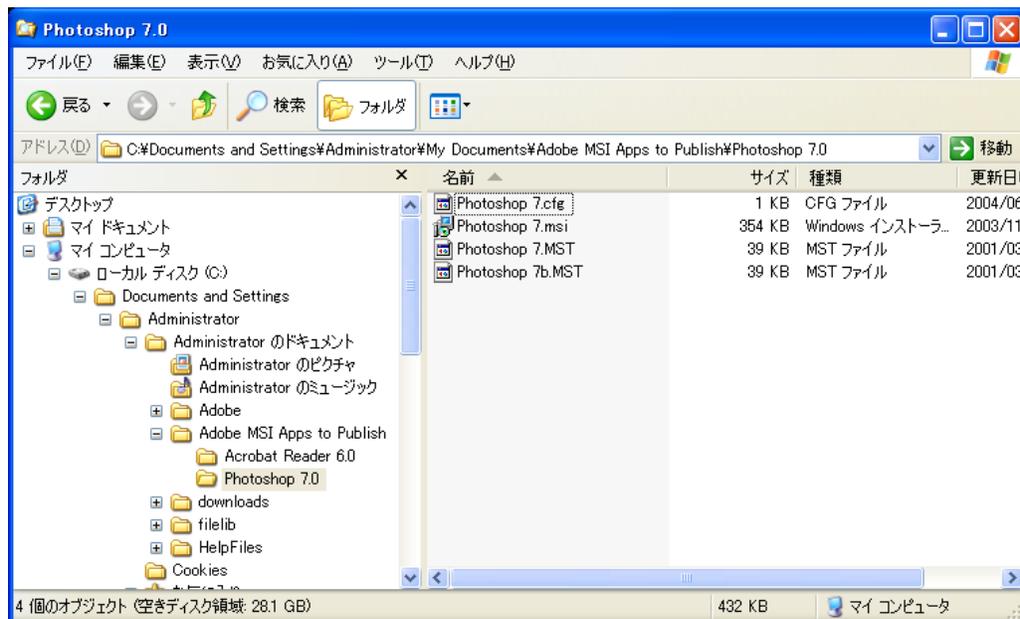


図 3.19 ～ ディレクトリ構造内の変換ファイル

シンボリック置換を使用して設定ファイルの値をカスタマイズする

類似する複数の .msi ファイルをパブリッシュする場合に使用する設定ファイルを 1 つのみにする場合、シンボリック置換を使用して一意の値を割り当てることができます。たとえば、一意のパッケージ名を作成するには、設定ファイルの **pkgname** 変数に、%MSIPROP.VARNAME% または .msi ファイル内にある別のシンボリック変数を設定します。Radia Publisher は、パブリッシュを実行中の各 .msi ファイルを検索し、指定されたシンボリック値に基づいて、**pkgname** の値を .msi ファイル内の対応する値と置換します。

61 ページの「[図 3.20 ~ シンボリック置換を示すサンプル 設定ファイル](#)」は、シンボリック置換を使用するサンプル 設定ファイルです。

```

# -----
#      Radia Publisher - Sample imbedded MSI Properties Configuration File
# -----

#-----
#   Package related variables
#-----
pkgname      {"%MSIPROP.RADIA_PKG_DISPLAY_NAME%"}
package      {"%MSIPROP.RADIA_PKG_INSTANCE_NAME%"}
pkgdesc      {"%MSIPROP.RADIA_PKG_DESCRIPTION%"}
path         {"%MSIPROP.RADIA_PKG_PUBLISHPATH%"} # PRIMARY.SOFTWARE

#-----
#   Service related variables
#-----
addtosvc     {"%MSIPROP.RADIA_ADDTOSVC%"} # 0 = no, 1 = yes
service      {"%MSIPROP.RADIA_SVC_INSTANCE_NAME%"}
svcname      {"%MSIPROP.RADIA_SVC_DISPLAY_NAME%"}
svcdesc      {"%MSIPROP.RADIA_SVC_DESCRIPTION%"}

attr PACKAGE {
  RELEASE    {"%MSIPROP.RADIA_SVC_AUTHOR%"} # 1.3.5.7
}
attr ZSERVICE {
  URL        {"%MSIPROP.RADIA_SVC_URL%"}
  OWNER      {"%MSIPROP.RADIA_SVC_OWNER%"}
  OWNER      {"%MSIPROP.RADIA_SVC_OWNER%"}
  PRICE      {"%MSIPROP.RADIA_SVC_PRICE%"}
  ZSVCMO     {"%MSIPROP.RADIA_SVC_ZSVCMO%"} # (i.e., M,0,MO,OM)
  ZCREATE    {"%MSIPROP.RADIA_SVC_ZCREATE%"} # (i.e., radiamsi /I /qu)
msi {
  aiplocation {"%MSIPROP.RADIA_AIPLOCATION%"} # c:¥temp¥RadiaAIP¥
  publishmode {"%MSIPROP.RADIA_PUBLISHMODE%"} # advanced, basic
  execuicui {"%MSIPROP.RADIA_EXECUI%"} # full, basic, none
  deleteaip {"%MSIPROP.RADIA_DELETEAIP%"} # yes, no
  aiparguments {"%MSIPROP.RADIA_AIPARGS%"} #
  enableperuser {"%MSIPROP.RADIA_ENABLEPERUSER%"} # s,r,e, and d (i.e., sre)
  addfiles {"%MSIPROP.RADIA_ADDFILES%"} # comma separated list
  features {"%MSIPROP.RADIA_FEATURES%"} # comma separated list
  transform {"%MSIPROP.RADIA_TRANSFORM%"} # comma separated list
  mgtype {"%MSIPROP.RADIA_MGTYPE%"} # manual, automatic
}

```

図 3.20 ~ シンボリック置換を示すサンプル 設定ファイル

上の例では、作成されるパッケージおよびサービスのそれぞれの値は、関連する .msi ファイルのプロパティ テーブルから生成されます。

MSI 置換値送信元には、主に次の 2 つがあります。

- **%MSISUMM_summary_variable_name%**—MSI ファイルに関連付けられた要約情報から抽出されます。
- **%MSIPROP_property_name%**—MSI ファイルに関連付けられたプロパティ テーブルから抽出されます。

組み込み MSI プロパティおよび Radia Extensions for Windows Installer のユーザー定義のプロパティ

Radia Extensions for Windows Installer のパッケージ ウィザード、詳細オプション、およびユーザー定義のプロパティを使用すると、Radia Advanced Publisher を使用して作成した各 .msi パッケージに、プロパティのセットおよびそのデフォルト値が自動的に追加できます。これらのプロパティは、Wise や InstallShield などのベンダーによって作成されたパッケージに手動で追加できます。

デフォルトの条件テストのセットを各パッケージに含めて、パッケージ化プロセス中にこれらの値が管理者によって更新されたことを確認することもできます。これにより、パッケージの条件テストの失敗が回避されます。

詳細については、『Radia Extensions for Windows Installer Guide』を参照してください。

まとめ

- **Radia Publisher** を使用すると、**Radia** データベースにオペレーティング システム イメージまたは **Windows** インストーラ ファイルがパブリッシュできます。
- **Radia System Explorer** を使用して、**Radia** ドメイン内の **Radia** パッケージおよび **Radia** サービスが表示できます。
- オペレーティング システムのサービスおよびパッケージは、**Radia** データベースの **OS** ドメインに格納されます。
- **Radia Publisher** は、複数の **.msi** ファイルをまとめてパブリッシュすることができます。
- 複数の **.msi** ファイルをパブリッシュする場合に設定ファイルのシンボリック置換を使用すると、複数の設定ファイルを使わずに済みます。
- **.msi** ファイルをバッチ化してパブリッシュするときに含める変換ファイルは、変換ファイルを適用する **.msi** ファイルと同じディレクトリ内に格納する必要があります。

Radia Publisher を使用してファイルをパブリッシュする

リスト



図 1.1 ~ Radia Publisher のログオン ウィンドウ	12
図 1.2 ~ Radia パッケージ化/パブリッシュのオプション	13
図 1.3 ~ Radia データベースにパブリッシュする Radia Publisher	14
図 1.4 ~ パブリッシュの手順	15
図 1.5 ~ ユーザー インターフェイスで強調表示される現在のパブリッシュの手順	15
図 1.6 ~ Radia Publisher のログオン ウィンドウ	16
図 2.1 ~ Radia Administrator Workstation の [ようこそ] ウィンドウ	21
図 2.2 ~ [HP Software License Terms] ウィンドウ	22
図 2.3 ~ Radia Administrator Workstation のインストール ディレクトリの選択	23
図 2.4 ~ Radia Configuration Server の指定	24
図 2.5 ~ Radia Administrator Workstation 機能の選択	25
図 2.6 ~ [アプリケーションをインストールする準備ができました] ウィンドウ	26
図 3.1 ~ ログイン情報	30
図 3.2 ~ パブリッシュする Windows インストーラ ファイルの選択	31
図 3.3 ~ 詳細なパブリッシュ モードのオプション	33
図 3.4 ~ 基本パブリッシュ モードのオプション	35
図 3.5 ~ [パッケージ情報] ウィンドウ	37
図 3.6 ~ [サービス情報] ウィンドウ	38
図 3.7 ~ [パブリッシュ] ウィンドウ	40
図 3.8 ~ Radia System Explorer に表示された新しい Radia パッケージおよび Radia サービス	41
図 3.9 ~ [アップグレード] オプションのみ使用可能 (パッチ ファイル (.msp) 選択時)	42
図 3.10 ~ ログイン情報	44
図 3.11 ~ パブリッシュするオペレーティング システム イメージ ファイルの選択	45

リスト

図 3.12 ~ OS イメージのパッケージ情報.....	47
図 3.13 ~ OS イメージのサービス情報	48
図 3.14 ~ OS イメージのパブリッシュ セッションの完了.....	50
図 3.15 ~ Radia System Explorer に表示された OS パッケージおよびサービス.....	51
図 3.16 ~ サンプル 設定ファイル	54
図 3.17 ~ 設定ファイルが格納されているルート ディレクトリ	57
図 3.18 ~ ディレクトリ構造内の設定ファイル	58
図 3.19 ~ ディレクトリ構造内の変換ファイル	59
図 3.20 ~ シンボリック置換を示すサンプル 設定ファイル	61

表

表 P.1 ~ スタイル	6
表 P.2 ~ 用法	6
表 P.3 ~ 用語 *	7
表 3.1 ~ ZSVCMO 変数	39
表 3.2~ ZSVCMO 変数	49
表 3.3 ~ 設定ファイルのパラメータ	52

手順

Radia Publisher を起動するには.....	16
Radia Administrator Workstation をインストールするには.....	21
Windows インストーラ ファイルをパブリッシュするには.....	30
オペレーティング システム イメージをパブリッシュするには.....	44

A

addtosvc パラメータ, 52
aiparguments 設定, 53
aiplocation 設定, 53
attr CLASS {body} パラメータ, 53

B

-batchmsi パラメータ, 55

C

-cfg パラメータ, 52, 55

D

deleteaip 設定, 53

E

enableperuser 設定, 53
execui 設定, 53

F

-file パラメータ, 55

I

IMG ファイル, 43

L

log ディレクトリ, 56

M

msi {body} パラメータ, 53
MSI 置換値送信元, 62
mst ファイル, 55

O

OS ドメイン, 43

P

package パラメータ, 52
path パラメータ, 52
pkgdesc パラメータ, 52
pkgname パラメータ, 52
pkgname 変数, 60
Power Quest イメージファイル, 43
PQI ファイル, 43
Publisher、インストール, 21
publisher.log ファイル, 56
publishmode 設定, 53

R

Radia Configuration Server を指定するウィンドウ, 24
Radia Extensions for Windows Installer, 62
Radia Publisher
 インストール, 19
 インストールディレクトリ, 23
 起動, 16
 サポートされるファイル, 12
 パブリッシュの手順, 15
 ようこそウィンドウ, 21

ログオン ウィンドウ, 12, 16

Radia Publisher

インストール設定, 25

Radia データベース, 30

S

service パラメータ, 52

svcdesc パラメータ, 52

svcname パラメータ, 52

Sysprep.inf, 46

Sysprep.inf ファイル, 43

SYSPREP クラス, 43

W

Windows インストーラ ファイル, 30

Z

ZSVCMO 変数, 39, 49

あ

[アップグレード] パブリッシュ オプション, 34, 36

い

[インストール シミュレータ] パブリッシュ オプション, 34

お

[オプション] 割り当てタイプ, 49

[オプション] 割り当てタイプ, 39

オペレーティング システム イメージ、パブリッシュ, 43

か

カスタマー サポート, 4

[管理インストール ポイント] パブリッシュ オプション, 34

[かんりオプション] パブリッシュ オプション, 36

[管理のタイプ], 39, 49

管理のタイプ, 49

き

[機能] パブリッシュ オプション, 34

基本パブリッシュ モード, 35

こ

コマンドライン

パブリッシュ, 52

パブリッシュするファイルの定義, 55

設定ファイル

サンプル, 54

さ

[サービス情報] ウィンドウ, 38, 48

し

システム要件, 20

システム要件、Publisher, 20

[自動] 管理タイプ, 49

[自動] 管理のタイプ, 39

詳細なパブリッシュ モードのオプション, 33

シンボリック置換, 60

せ

設定ファイル

使用, 52

パラメータ, 52

複数, 57

つ

[追加のファイル] パブリッシュ オプション, 36

て

テクニカル サポート, 4

[手動] 管理のタイプ, 39

[手動 I] 管理タイプ, 49

は

[パッケージ情報] ウィンドウ, 37, 47

パッケージ名, 60

バッチ モード, 55

パブリッシュ

コマンドライン, 52

手順, 15

複数の .msi ファイル, 55

[パブリッシュ] ウィンドウ, 40

[パブリッシュするデータのタイプ], 44

ひ

[必須] 割り当てタイプ, 39, 49

ふ

[プロパティ] パブリッシュ オプション, 34

へ

[変換] パブリッシュ オプション, 34, 36

変換ファイル, 55

ま

[マシン/ユーザー] パブリッシュ オプション, 34

わ

[割り当てのタイプ], 39, 49

割り当てのタイプ, 49

